

病害虫発生予報

第3号(6月予報)

令和5年5月29日

岐阜県病害虫防除所

【予報の概要】

作物名	病害虫名	対象地域名	発生時期	発生量
水稻	葉いもち	栽培地域全域	やや早	やや多
	ヒメビウンカ	岐阜・西濃、中濃地域の早植地帯	やや早	多
	縞葉枯病	岐阜・西濃、中濃地域の早植地帯	やや早	少
	ニカメイガ	栽培地域全域	平年並	少
かき	カキノヘタムシガ	栽培地域全域	早	少
	ハマキムシ類	栽培地域全域	平年並	多
なし	黒星病	栽培地域全域	早	やや多
	ナシヒメシンクイ	中濃地域	やや早	平年並
もも	せん孔細菌病	飛騨地域	やや早	やや多
	ナシヒメシンクイ	飛騨地域	平年並	やや少
果樹類	果樹カメムシ類	栽培地域全域	-	やや多
茶	ハマキムシ類	岐阜・西濃地域	やや早	平年並
	チャノホソガ	岐阜・西濃地域	やや早	やや少
夏秋トマト	灰色かび病	中濃、東濃、飛騨地域	平年並	やや多
野菜一般	アブラムシ類	栽培地域全域	-	平年並
アブラナ科野菜	コナガ	栽培地域全域	-	やや少

※発生時期の-は連続発生

【防除にあたっての注意事項等】

薬剤防除にあたっては、「病害虫・雑草防除指導指針」を参照するとともに、最新の農薬登録情報を確認し、使用基準を順守してください。

外部リンク：農薬登録情報提供システム（農林水産省）

<https://pesticide.maff.go.jp/>

【発生予報・根拠・注意事項等】

I 普通作物

1 水稻

葉いもち	対象地域	発生時期<初発生>	発生量
	栽培地域全域	やや早（6月第4半旬）	やや多

- (1) 予報の根拠（発生量が多くなる要因を（+）、少くなる要因を（-）で表記）
 - ア 5月下旬までの調査では、補植用置苗にいもち病の発生が東濃地域で認められた（+）。
 - イ 向こう1ヶ月（5/27～6/26）の気象予報によれば、気温は平年並～高く（±～+）、降水量は平年並～多い（±～+）と予想される。
- (2) 防除上注意すべき事項
 - ア 補植用置苗はただちに除去し、早期発見、早期防除に努める。
 - イ 今後の高精度発生予察速報（BLASTAMによるいもち病情報）に注意する。
 - ※ 病害虫図鑑「水稻 いもち病について」もあわせて参考にしてください。

ヒメトビウンカ	対象地域	発生最盛期＜第一世代成虫＞	発生量
	岐阜・西濃、中濃 地域の早植地帯	やや早(6月第1半旬頃)	多

縞葉枯病	対象地域	発生時期＜初発生＞	発生量
	岐阜・西濃、中濃 地域の早植地帯	やや早(6月第2半旬頃)	少

(1) 予報の根拠

- ア 小麦の成熟期は、西濃地域で早く(+)、中濃地域でやや早い(+)と予想される。
- イ ヒメトビウンカの小麦での発生量は多かった(+)
- ウ 前年のヒメトビウンカ保毒虫率は平均0.1%と、平年と比べて低かった(-)。
- エ 縞葉枯病抵抗性のハツシモ岐阜SLへ切替えが行われた(-)。
- オ 向こう1ヶ月(5/27~6/26)の気象予報によれば、気温は平年並~高く(±~+)、降水量は平年並~多い(±~-)と予想される。

(2) 防除上注意すべき事項

- ア 多発地帯では、抵抗性品種の作付けや、ウンカ類に効果が高い薬剤を選択するなどの対策を行う。
 - イ ヒメトビウンカの保毒虫率は近年低い、感受性品種については引き続き対策を行うことが必要である。
- ※ 病害虫図鑑「ヒメトビウンカと縞葉枯病について」もあわせて参考にしてください。

ニカメイガ	対象地域	発生最盛期＜越冬世代成虫＞	発生量
	栽培地域全域	平年並(6月第3半旬頃)	少

(1) 予報の根拠

- ア 予察灯及びフェロモントラップへの初飛来は、認められていない(-)。
- イ 前年の発生面積は少なかった(-)。
- ウ 向こう1ヶ月(5/27~6/26)の気象予報によれば、気温は平年並~高く(±~+)、降水量は平年並~多い(±~-)と予想される。

(2) 防除上注意すべき事項

- ア これから田植えをする場合は、本虫に効果のある箱施薬を行う。
- イ 地域により発生時期が異なり、局地的に多発することがあるので、今後の地区情報等に注意する。

II 果樹等作物

1 かき

カキノヘタムシガ	対象地域	発生最盛期＜第一世代幼虫＞	発生量
	栽培地域全域	早(5月第4半旬頃)	少

(1) 予報の根拠

- ア 越冬世代成虫の初発生は早く(+)、発生最盛期は早かった(+)
- イ 発蛾最盛期における発生量は、少なかった(-)。
- ウ 向こう1ヶ月(5/27~6/26)の気象予報によれば、気温は平年並~高く(±~+)、降水量は平年並~多い(±~-)と予想される。

(2) 防除上注意すべき事項

- ア 近年成虫の発生期間が長期化しているため、例年発生が多いほ場では、残効の長い薬剤を使用するか、2回防除を実施する。
- ※ 病害虫情報「カキノヘタムシガに注意(令和5年5月15日発表)」、病害虫図鑑「かき カキノヘタムシガについて」もあわせて参考にしてください。

ハマキムシ類	対象地域	発生最盛期＜第一世代成虫＞	発生量
	栽培地域全域	平年並(6月第6半旬頃)	多

(1) 予報の根拠

- ア 予察灯への越冬世代成虫初飛来は、チャノコカクモンハマキは岐阜・西濃地域で未確認、中濃地域で早く(+)、チャハマキでは岐阜・西濃地域で未確認、中濃地域で早かった(+)

- イ フェロモントラップにおける越冬世代成虫誘殺最盛期は、岐阜・西濃地域のチャノコカクモンハマキで平年並（±）、中濃地域のチャハマキでやや早かった（+）。
- ウ フェロモントラップにおける越冬世代成虫誘殺数は、岐阜・西濃地域のチャノコカクモンハマキで多く（+）、中濃地域のチャハマキで多かった（+）。
- エ 向こう1ヶ月（5/27～6/26）の気象予報によれば、気温は平年並～高く（±～+）、降水量は平年並～多い（±～+）と予想される。

(2) 防除上注意すべき事項

- ア 幼虫発生初期に防除を実施する。
※ 病害虫図鑑「かき ハマキムシ類について」もあわせて参考にしてください。

2 なし

黒星病	対象地域	発生時期＜果実発病最盛期＞	発生量
	栽培地域全域	早(6月第2～4半旬頃)	やや多

(1) 予報の根拠

- ア なしの開花期は、早かった（+）。
- イ 5月下旬までの調査では、発病葉率は岐阜・西濃地域で低く（-）、中濃地域で高く（+）、発病果率は岐阜・西濃地域でやや低く（-）、中濃地域で低かった（-）。
- ウ 向こう1ヶ月（5/27～6/26）の気象予報によれば、気温は平年並～高く（±～+）、降水量は平年並～多い（±～+）と予想される。

(2) 防除上注意すべき事項

- ア 発病部位は、伝染源となるため早めに切り取り処分する。
※ 病害虫図鑑「なし 黒星病について」もあわせて参考にしてください。

ナシヒメシクイ	対象地域	発生最盛期＜第一世代成虫＞	発生量
	中濃地域	やや早(6月第1半旬頃)	平年並

(1) 予報の根拠

- ア なしの開花期は、早かった（+）。
- イ フェロモントラップでの越冬世代成虫誘殺数は、平年並（±）であった。
- ウ 向こう1ヶ月（5/27～6/26）の気象予報によれば、気温は平年並～高く（±～+）、降水量は平年並～多い（±～+）と予想される。

(2) 防除上注意すべき事項

- ア 第一世代成虫発生最盛期の7日後を目安に防除を実施する。
※ 病害虫図鑑「なし ナシヒメシクイについて」もあわせて参考にしてください。

3 もも

せん孔細菌病	対象地域	発生時期＜発病拡大期＞	発生量
	飛騨地域	やや早(6月第3半旬頃)	やや多

(1) 予報の根拠

- ア ももの開花期は、早かった（+）。
- イ 前年の発生面積は、少なかった（-）。
- ウ 春型枝病斑の発生率は低かったが（-）、すでに葉への感染が認められる（+）。
- エ 向こう1ヶ月（5/27～6/26）の気象予報によれば、気温は平年並～高く（±～+）、降水量は平年並～多い（±～+）と予想される。

(2) 防除上注意すべき事項

- ア 発病枝（春型枝病斑）や周辺の新梢葉などの発病部位は、伝染源となるため早めに除去し処分する。
- イ 本病は葉や果実の気孔等の自然開口部、風雨等による傷口から侵入するため、防風ネット等による防風対策や害虫を対象とした薬剤防除を併せて行う。
- ウ 幼果は本病の感受性が高く、初期に感染すると落果の原因となるため、早めに袋かけを行い、感染防止に努める。
※病害虫図鑑「もも せん孔細菌病について」もあわせて参考にしてください。

ナシヒメシクイ	対象地域	発生最盛期＜第一世代成虫＞	発生量
	飛騨地域	平年並(7月第1半旬頃)	やや少

(1) 予報の根拠

- ア ももの開花期は、早かった (+)。
- イ フェロモントラップでの越冬世代成虫誘殺最盛期は、平年並 (±) であった。
- ウ フェロモントラップでの越冬世代成虫誘殺数は、少なかった (-)。
- エ 向こう1ヶ月 (5/27~6/26) の気象予報によれば、気温は平年並~高く (±~+)、降水量は平年並~多い (±~-) と予想される。

4 果樹類

カメムシ類	対象地域	発生量
	栽培地域全域	やや多

(1) 予報の根拠

- ア 予察灯における成虫誘殺数は、岐阜・西濃地域で多く (+)、中濃及び東濃地域で少なく (-)、飛騨地域で平年並 (±) であった。
- イ フェロモントラップによるチャバネアオカメムシの誘殺数は、岐阜・西濃及び中濃地域でやや多く (+)、東濃地域で少なく (-)、飛騨地域で多かった (+)。
- ウ チャバネアオカメムシの越冬量は、少なかった (-)。
- エ 向こう1ヶ月 (5/27~6/26) の気象予報によれば、気温は平年並~高く (±~+)、降水量は平年並~多い (±~-) と予想される。

(2) 防除上注意すべき事項

- ア 気温、湿度が高く、風が弱い夜間に飛来が多くなるので注意する。
※ 病害虫図鑑「果樹カメムシ類について」もあわせて参考にしてください。

5 茶

ハマキムシ類	対象地域	発生最盛期<第一世代幼虫>	発生量
	岐阜・西濃地域	やや早(5月第5半旬頃)	平年並

(1) 予報の根拠

- ア 一番茶の摘採期は、早かった (+)。
- イ フェロモントラップにおける越冬世代成虫誘殺最盛期は、チャハマキでやや早く (+)、チャノコカクモンハマキで平年並 (±) であった。
- ウ フェロモントラップにおける越冬世代成虫誘殺数は、チャハマキで多く (+)、チャノコカクモンハマキで平年並 (±) であった。
- エ 向こう1ヶ月 (5/27~6/26) の気象予報によれば、気温は平年並~高く (±~+)、降水量は平年並~多い (±~-) と予想される。

(2) 防除上注意すべき事項

- ア 幼虫が葉をつづりあわせると、葉液がかかりにくくなるため、ふ化期~若齢幼虫期に防除を実施する。
※ 病害虫図鑑「茶 ハマキムシ類について」もあわせて参考にしてください。

チャノホソガ	対象地域	発生最盛期<第一世代成虫>	発生量
	岐阜・西濃地域	やや早(6月第1半旬頃)	やや少

(1) 予報の根拠

- ア 一番茶の摘採期は、早かった (+)。
- イ 予察灯での越冬世代成虫誘殺数は、多かった (+)。
- ウ フェロモントラップにおける越冬世代成虫誘殺数は、少なかった (-)。
- エ 第一世代幼虫による巻葉数は、少なかった (-)。
- オ 向こう1ヶ月 (5/27~6/26) の気象予報によれば、気温は平年並~高く (±~+)、降水量は平年並~多い (±~-) と予想される。

(2) 防除上注意すべき事項

- ア 薬剤抵抗性の発達を避けるため、同一系統の薬剤の連用を避ける。
※ 病害虫図鑑「茶 チャノホソガについて」もあわせて参考にしてください。

Ⅲ 野菜

1 夏秋トマト

灰色かび病	対象地域	発生時期<初発生>	発生量
	中濃、東濃、飛騨地域	平年並(6月第5半旬頃)	やや多

(1) 予報の根拠

ア 向こう1ヶ月(5/27~6/26)の気象予報によれば、気温は平年並~高く(±~+)、降水量は平年並~多い(±~+)と予想される。

(2) 防除上注意すべき事項

ア 発病した果実や葉、枯死した花卉や葉先枯れ部はこまめに取り除き、ほ場外へ持ち出し処分する。

イ 薬剤耐性がつきやすいので、同一系統の薬剤の連用を避ける。

※ 病害虫図鑑「トマト 灰色かび病について」もあわせて参考にしてください。

2 野菜一般

アブラムシ類	対象地域	発生量
	栽培地域全域	平年並

(1) 予報の根拠

ア 有翅虫の黄色水盤での誘殺最盛期は、岐阜・西濃地域で早く、その他地域では認められていない。

イ 有翅虫の黄色水盤での誘殺数は、岐阜・西濃地域で少なく(-)、中濃地域でやや多く(+)、東濃地域でやや少なく(-)、飛騨地域で平年並(±)であった。

ウ 向こう1ヶ月(5/27~6/26)の気象予報によれば、気温は平年並~高く(±~+)、降水量は平年並~多い(±~-)と予想される。

(2) 防除上注意すべき事項

ア 薬剤抵抗性がつきやすいので、同一系統の薬剤の連用を避ける。

イ ウイルス病を伝搬する恐れがあるので、初期防除に努める。

ウ 雑草地からの飛込み等があるので、防虫ネット等で侵入防止を図り、ほ場周辺の雑草管理を徹底する。

※ 病害虫図鑑「ナス アブラムシ類について」もあわせて参考にしてください。

3 アブラナ科野菜

コナガ	対象地域	発生量
	栽培地域全域	やや少

(1) 予報の根拠

ア フェロモントラップでの誘殺数は、少なかった(-)。

イ ほ場での発生量は、岐阜・西濃地域で多く(+)、飛騨地域では少なかった(-)。

ウ 向こう1ヶ月(5/27~6/26)の気象予報によれば、気温は平年並~高く(±~+)、降水量は平年並~多い(±~-)と予想される。

(2) 防除上注意すべき事項

ア 薬剤抵抗性がつきやすいので、同一系統の薬剤の連用を避ける。

イ 施設内における葉菜類の栽培では、発生消長に注意し適期に防除を実施する。

[参考資料 1]

【5月の調査における病虫害発生量】

作物名	病虫害名	調査地点での発生量:5月			
		岐阜・西濃地域	中濃地域	東濃地域	飛騨地域
麦	ヒメビウンカ	多	多	-	-
かき	カキノヘタムシガ	少	-	-	-
	ハマキムシ類	多	多	-	-
なし	黒星病	やや少	平年並	-	-
	ナシヒメシンクイ	-	平年並	-	-
もも	せん孔細菌病	-	-	-	少
	ナシヒメシンクイ	-	-	-	少
果樹	カメムシ類	多	やや多	少	やや多
茶	ハマキムシ類	やや多	-	-	-
	チャノホソガ	やや少	-	-	-
野菜一般	アブラムシ類	平年並	やや多	やや少	平年並
アブラナ科野菜	コナガ	平年並	-	-	少

※調査地点は圃場、予察灯、フェロモントラップ等

[参考資料 2]

《用語の基準と使用法》

- 1 半旬 月の1～5日を第1半旬、6～10日を第2半旬と表す。
- 2 時期 平年並 平年値を中心として前後2日以内。
 やや早い 平年値より3～5日早い。
 やや遅い 平年値より3～5日遅い。
 早い 平年値より6日以上早い。
 遅い 平年値より6日以上遅い。
- 3 発生量 平年並 平年値を中心として、その値が±20%以内。
 やや多い 平年値より、その値が21～40%多い。
 やや少ない 平年値より、その値が21～40%少ない。
 多い 平年値より、その値が41%以上多い。
 少ない 平年値より、その値が41%以上少ない。
- 4 平年値 同一調査地点における過去10年間の値の平均値。

[参考資料 3]

【東海地方1か月気象予報】（抜粋）－名古屋地方気象台 令和5年5月25日発表－
 《予想される向こう1か月の天候（5月27日から6月26日）》

- ・期間の前半は、天気は数日の周期で変わるでしょう。
- ・向こう1か月の平均気温は、平年並または高い確率ともに40%です。降水量は、平年並または多い確率ともに40%です。日照時間は、平年並または少ない確率ともに40%です。
- ・週別の気温は、1週目は、平年並の確率60%です。2週目は、平年並の確率50%です。3～4週目は、平年並の確率40%です。

[向こう1ヶ月の気温、降水量、日照時間の各等級の確率(%)]

	低い(少ない)	平年並	高い(多い)
平均気温	20	40	40
降水量	20	40	40
日照時間	40	40	20

[気温経過の各階級の確率(%)]

	低い	平年並	高い
(1週目) 5/27～6/2	10	30	60
(2週目) 6/3～6/9	30	50	20
(3～4週目) 6/10～6/23	30	40	30

病害虫防除所ホームページに、病害虫発生予察調査データを公開しています。

<https://www.pref.gifu.lg.jp/page/2979.html>

主要な病害虫の防除上の注意事項等については、「病害虫図鑑」をご活用ください。

<https://www.pref.gifu.lg.jp/page/12933.html>

6月～8月は、令和5年度農薬危害防止運動の実施期間です。

農薬及びその取扱いに関する正しい知識を広く普及するとともに、農薬の適正販売、安全かつ適正な使用及び保管管理、使用現場における周辺への配慮を徹底し、農薬による事故等を未然に防止しましょう。